



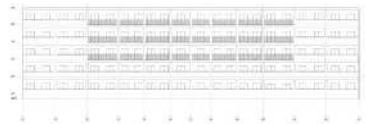
欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要	
建物名称	県営住宅興津団地A棟建替事業工事
BEE	1.6
BEEランク	A
	★★★★

重点項目への取組み度							
重点項目	得点*/満点						
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.6 /5						
"災害に強いすおか"の形成 (Disaster)	2.7 /5						
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.3 /5						
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.6 /5						
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)							
評価 凡例 <table style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr> <td>よい</td> <td>ふつつ</td> <td>がんばろう</td> </tr> <tr> <td>4点以上</td> <td>3点以上</td> <td>3点未満</td> </tr> </table>		よい	ふつつ	がんばろう	4点以上	3点以上	3点未満
よい	ふつつ	がんばろう					
4点以上	3点以上	3点未満					

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目		
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。				
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)		得点	3.6	
<ul style="list-style-type: none"> ■室内環境対策 (①室温制御/②屋光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) <ul style="list-style-type: none"> ②共用部:該当無し 住戸部:U値2.0以上確保 ④壁:クロス貼下地PB、天井:クロス貼り下地PB耐用年数20年以上、給水・排水B以上 ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) <ul style="list-style-type: none"> ⑥緑地帯を設け、環境に配慮した。 ■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) <ul style="list-style-type: none"> ⑦大半の住戸で日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」における等級5相当である ⑧ほぼ全体の住戸で外皮等に2方向面しており、有効な採光・通風が確保されている。 ⑨[BEE]=0.68 ⑩設備毎の取扱説明書が入居者に手渡されている。 ■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) <ul style="list-style-type: none"> ⑪節水型の衛生設備を採用する。 	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① 外皮性能 Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 屋光利用設備 3.2 3.2.1 ③ 屋光制御 Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 躯体材料の耐用年数 2.2.2 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 2.2.3 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 2.2.4 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 2.2.5 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 2.2.6 ④ 主要設備機器の更新必要間隔 Q-3 1 ⑤ 生物環境の保全と創出 3 3.2 ⑥ 敷地内温熱環境の向上 LR-1 1 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 2 ⑧ 自然エネルギー利用 3 ⑨ 設備システムの高効率化 4 4.1 ⑩ モニタリング 4.2 ⑩ 運用管理体制 LR-2 1 1.1 ⑪ 節水 1.2 1.2.1 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 1.2.2 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 2 2.1 ⑫ 材料使用量の削減 2.2 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 2.3 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 2.4 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 2.5 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 2.6 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み 3 3.1 ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 3.2 3.2.1 ⑬ 消火剤 3.2.2 ⑬ 断熱材 3.2.3 ⑬ 冷媒 LR-3 1 ⑭ 地球温暖化への配慮 2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善			
	"災害に強いすおか"の形成 (Disaster)		得点	2.7
	<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) <ul style="list-style-type: none"> ⑰標準的な維持管理仕様ではあるが、継続的に利用する側の普通のメンテナンスし易さを考慮した設計とした。 耐用年数の長い配管を採用して更新必要間隔を長く出来るよう努めた。 	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 耐震性 2.1.2 ⑯ 免震・制振性能 2.4 2.4.1 ⑰ 空調・換気設備 2.4.2 ⑰ 給排水・衛生設備 2.4.3 ⑰ 電気設備 2.4.4 ⑰ 機械・配管支持方法 2.4.5 ⑰ 通信・情報設備		
		"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)		得点
<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) <ul style="list-style-type: none"> ⑳階高3.00m、天井高2.4mを確保、主室を長方形とし、入居者が使いやすく、快適な空間作りを努めた。 ■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) <ul style="list-style-type: none"> ㉑建物周囲に視角空間をつくらないようにし、防犯性に配慮した。 	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画 3 3.1 3.1.1 ⑲ 階高のゆとり 3.1.2 ⑲ 空間の形状・自由さ Q-3 3 3.1 ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上			
	"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)		得点	2.6
<ul style="list-style-type: none"> ■室外環境(敷地内)対策 (⑳生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/㉓敷地内温熱環境の向上) <ul style="list-style-type: none"> ㉒周辺に溶け込むデザインとし、環境に配慮した。 ■敷地外環境対策 (⑳持続可能な森林から産出された木材/㉓温熱環境悪化の改善) 	Q-3 1 ⑳ 生物環境の保全と創出 2 ㉒ まちなみ景観への配慮 3 3.2 ⑳ 敷地内温熱環境の向上 LR-2 2 2.5 ㉓ 持続可能な森林から産出された木材 LR-3 2 2.2 ㉓ 温熱環境悪化の改善			

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	県営住宅興津団地A棟建替事業工事	階数	地上5F
建設地	静岡県静岡市清水区興津中町 字浜	構造	RC造
用途地域	準工業地域、指定無し	平均居住人員	189 人
地域区分	7地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年8月 予定	評価の実施日	2023年9月25日
敷地面積	5,268 m ²	作成者	増田洋一
建築面積	910 m ²	確認日	
延床面積	3,863 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.6

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B+: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 4
Q1 室内環境: 2
Q3 室外環境(敷地内): 2
LR1 エネルギー: 1
LR2 資源・マテリアル: 2
LR3 敷地外環境: 2

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 3.4

Q1 室内環境

Q1のスコア = 4.1

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.7

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		その他
総合 ・これはCASBEE静岡(2016年版)による評価です。		特に無し
Q1 室内環境 ・サッシの遮音性能を高めた室内環境に努めた。 ・内装材はF★★★★を使用し、シックハウス対策に配慮した。	Q2 サービス性能 ・居室の天井高を2.4m確保。 ・標準的な維持管理仕様ではあるが、継続的に利用する側の段階のメンテナンスし易さを考慮した設計とした。 ・耐用年数の長い配管を採用して更新必要間隔を長く出来	Q3 室外環境(敷地内) ・建物周囲にできる限り死角空間をつくらないようにし、防犯性に配慮した。 ・緑地帯を設け、環境に配慮した。
LR1 エネルギー ・外皮性能の向上及び1次エネルギー消費量を抑える様努めた。 ・省エネ届 建物全体BEI=0.68 共用部BEI=0.37 ・LED照明の採用するなど、設備システムの高効率化に配慮している。	LR2 資源・マテリアル ・節水型の衛生設備を採用する。	LR3 敷地外環境 ・駐輪場の台数の確保、導入路・配置等に配慮した。 ・夜間における敷地内歩行者・自転車のための照明を設置する。 ・出入口付近での安全を確保する為、出入口付近では歩行者・車両共に十分な見通しを確保する。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される